

モデル地区での取り組み 相生市千尋地区(流域対策)

取り組み	進捗状況	H27年度予定	今後のスケジュール		
			H26	H27	H28
相生産業高等学校での校庭貯留の実施	<p>(県)</p> <p>H27年度に調査・設計をすること、学校等の関係機関と調整済。</p> <p>○</p>	<p>学校の耐震化工事がH26-H27年度に実施されるため、H27年度は学校貯留の調査設計に着手</p>	<p>(学校の耐震化工事(H26-H27))</p> <p>校庭貯留調査・設計</p> <p>校庭貯留工事</p>		
ため池の治水利用	<p>(県・市)</p> <p>ため池(新池)貯留について、県、相生市と役割分担を調整。 治水利用に向けて調査設計に着手済。</p> <p>◎</p>	<p>工事着手</p>	<p>ため池の調査・設計</p> <p>ため池の改修工事着手</p>		

※ 太字については、H26年度実績及びH27年度予定を記載しています。

凡 例	◎	H26実施
	○	H27実施
	△	調整中(H28以降実施含)
	▲	未調整/未実施
	□	継続

取り組み	進捗状況	H27年度予定	今後のスケジュール			
			H26	H27	H28	H29
ため池での治水容量の確保 (県、町、県民)	□ (県、町) 大雨が予想される場合に、ため池の落水を管理者に要請している。	継続して実施。				
	□ (県民) 大雨が予想される場合に、ため池の落水を実施する。	継続して実施。				
水田貯留の実施(せき板支給等) (県、町、県民)	○ (県、町) 長尾地区で普及啓発を実施。東徳久地区、庵地区で田んぼダムを実施(佐用町内)	田んぼダムの実施に向け、長尾地区に堰板を配布	普及啓発を図り46haで水田貯留を実施。(佐用町内)	普及啓発を図り約60haで水田貯留を実施。(佐用町内)	普及啓発を図り約100haで水田貯留を実施。(佐用町内)	普及啓発を図り水田貯留を実施。
	○ (県民) 長尾地区で田んぼダムの説明を受けた。	長尾地区で堰板を設置し、田んぼダムを実施	普及啓発を図り46haで水田貯留を実施。(佐用町内)	普及啓発を図り約60haで水田貯留を実施。(佐用町内)	普及啓発を図り約100haで水田貯留を実施。(佐用町内)	普及啓発を図り水田貯留を実施。
佐用高校等での校庭貯留の実施 (県、町)	○ (県) 校庭貯留の調査設計について調整	(県) 校庭貯留の調査設計(学校体育館の吊り天井工事着手予定)	校庭貯留の調査設計について調整	校庭貯留の調査設計(佐用高校吊り天井工事)	佐用高校校庭貯留の工事	
大規模店舗駐車場で雨水貯留の実施 (民間)	○ (県) 総合治水啓発用の企業向けガイドライン「水害から自分たちの会社をまもるために」を作成	・開発許可を行う部署にガイドラインを配布し、開発許可の際に総合治水の周知啓発に努める。 ・商工会議所にガイドラインを配布し、総合治水にかかる雨水貯留施設の周知啓発を行う。	開発許可の際に、総合治水にかかる雨水貯留施設の周知・啓発に努めていく			
	▲ (民間)					
各戸貯留の実施 (県民)	△ (町) 検討中				雨水貯留タンクへの助成制度を検討	
	▲ (県民)					

※ 太字については、H26年度実績及びH27年度予定を記載しています。

凡 例	◎	H26実施
	○	H27実施
	△	調整中(H28以降実施含)
	▲	未調整/未実施
	□	継続

取り組み	進捗状況	H27年度予定	今後のスケジュール			
			H26	H27	H28	H29
【浸水が想定される区域の指定・県民の情報の把握】 ① 浸水が想定される区域、浸水深等の周知 ・ハザードマップの周知(市)	□ (市) H23年にハザードマップ作成済み。 (H25年度津波ハザードマップを作成済み)	(H28年度以降、県の浸水想定区域図の更新に合わせて、洪水ハザードマップ改定の予定)				
・CGハザードマップの普及啓発(県)	□ (県) HPにてCGハザードマップの周知を図っている。 オータムフェスタ等のイベントにおいても周知活動を実施	継続して実施				
・浸水想定深の地点表示(まるごと・まちごと・ハザードマップ)(市)	▲ 未実施					
【浸水による被害の発生に係る情報の伝達】 ① 雨量・水位情報の収集 ・県のリアルタイム観測情報や水位予測・氾濫予測システム、河川監視カメラの活用(県)	□ (県) 県民に対し、雨量や河川水位のリアルタイム観測情報をHP(兵庫県地域の風水害対策情報)を通じて発信している。 市に対してフェニックス防災システムにより、はん濫注意情報等の洪水予測を伝達している。	継続して実施				
・「ひょうご防災ネット」による気象情報、避難情報等を住民に直接配信(県)	□ (県) ひょうご防災ネットにて気象情報等を配信している。 県民だよりひょうご1月号(防災特集)にて周知	継続して実施				
・職員による河川水位の監視(市)	□ (市) 赤穂市水防計画に基づき、河川監視班を設置。水位上昇の恐れがある場合等において監視を行っている。	継続して実施				
防災行政無線の整備	◎ (市) 防災行政無線の実施設計を実施。 防災行政無線整備に着手。	継続して実施	防災行政無線整備に着手	防災行政無線の親局、中継局、子局の整備工事		
【浸水による被害の軽減に関する学習】 ① 人材の育成 ・県が主催する「防災リーダー講座」への参加(県、市、県民)	□ (県、市、県民) H25は中播磨地域で防災リーダー講座を開講(西播磨地域から15人参加)(H26実績なし) ひょうご防災リーダー講座を自治会を通じて呼びかけを行う。	防災研修開催の予定なし				
・県民局主催の総合治水にかかる研修会の実施(県)	△ (県) (現時点では、総合治水に対する認知度が低いため、フロンティア祭・オータムフェスタにおいて、パネル展示や模型実験で総合治水を広く周知)	引き続き、イベント等を通じて総合治水を広く周知。				
② 意識の啓発 ・出前講座(県、市) ・講演会、研修会(県、市)	○ (県、市) 出前講座において意識の啓発を行う。 (県) フロンティア祭・オータムフェスタにおいて、パネル展示や模型実験で総合治水を広く周知。	未定				
③ 防災マップの作成支援 ・講習会の開催(県、市)	○ (市) 自主防災組織によるDIG訓練の実施(年間10件程度)及び防災マップ作成支援。(H26実績なし) (県) 防災対策ワークショップ開催支援事業を実施し、市町・自主防災組織等の防災訓練や防災マップ作成を支援。(赤穂地区未実施) (県民) 防災マップ作成についてはH26年度実績なし。	継続して実施				
・自主防災組織での防災マップ作成(県民)		継続して実施				
・自主防災組織での防災マップ作成支援(県、市)		継続して実施				
【浸水による被害の軽減のための体制の整備】 ① 災害時要援護者の把握・支援体制の整備	□ (市) 水防計画に基づき、水防体制を整えている。	継続して実施				
② 水防体制の強化 ・県も参加した大規模総合防災訓練の実施(県、市、県民)	◎ (県、市) 市消防と県消防防災航空隊が合同で水難救助訓練を実施。	継続して実施	津波避難・情報伝達訓練及び水防訓練の実施	津波避難・情報伝達訓練及び水防訓練の実施	津波避難・情報伝達訓練及び水防訓練の実施	
・自主防災組織の強化(県、市、県民)	□ (県、市、県民) 訓練等により自主防災組織の強化に努めている。	継続して実施				
【建物等の耐水機能】 ① 耐水機能の確保・強化 ・防災拠点施設の耐水化(市)	◎ (市) 保健福祉センターの実施設計	保健福祉センターの建設	公共施設の耐水機能の確保(保健福祉センターの実施設計)	公共施設の耐水機能の確保(保健福祉センターの建設)		
・水害時に利用する避難所施設の耐水化(県、市)	△ (県) 既存施設の耐水化について、国に補助制度を要望。	継続して実施				
【浸水による被害からの早期の生活の再建】 ① 災害からの復旧の備え ・フェニックス共済の加入促進(県、市)	□ (県) 広報誌への掲載やイベント時のPRを実施している。 (市) 「フェニックス共済」への加入促進については広報「あこう」にてPRを行っている。	継続して実施				
・地域防災計画に基づく応援要請体制の整備(市)	□ (市) 水防計画において、各関係機関等と協定を結んでいる。	継続して実施				

※ 太字については、H26年度実績及びH27年度予定を記載しています。

凡例	
◎	H26実施
○	H27実施
△	調整中(H28以降実施含)
▲	未調整/未実施
□	継続